

平成 23 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立日野高等学校
 学校長 金田 静樹

評 価 日	平成 23 年 1 2 月 9 日 (金)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況		
(ア) 「学力の充実」について 習熟度クラスでは、クラスによって授業の質に偏りが生じないよう配慮していただきたい。 県の指定を受けた特別支援教育については、学校全体で研究を進め学力向上に結び付けていただきたい。支援を要する生徒に対しては家庭、学校、社会が連携して早期対応することが望ましい。教師が特別支援教育の視点を持つことは、一般の生徒を指導する場合にも好影響を及ぼすものと期待される。	少人数指導の強みを活かしながら「わかりやすい授業」実現に努め、学力向上を図っている。今後は特別支援教育の視点も取り入れながら一層の向上を図りたい。	
(イ) 「豊かな人間性の育成」について 生徒の「言葉遣い」については中学校での指導の影響もあるので中高で連携して当たるのがよい。 人間関係力育成のための多様な方策を実施するとともに、カウンセラーを積極的に活用していることは高く評価できる。	中高の連携を図りながらルール・マナーの指導に努めていきたい。また、専門家の助言を得ながら人間関係力育成を図りたい。	
(ウ) 「進路指導の充実」について 本校の生徒は立派な進路の実績をあげており、大いに PR すべきだ。 支援を要する生徒が「学校では育っていても社会に出て通用しない」ではいけない。就労支援のシステム作りは本校だけでなく、すべての教育機関の課題である。今後も研究を進めていただきたい。	進路指導については、キャリア教育の視点を取り入れながら従来よりその充実にも努めている。 支援を要する生徒に対する就労支援も外部機関との連携を強めながら積極的に進めていきたい。	
(エ) 「光り輝く学校づくり (地域との連携)」について 中学校教員対象の中高連絡会は新たな試みで期待したい。中学生対象の取組は、例えば郷土芸能部の神楽公演を中学生対象に行うなどさらに工夫してもらいたい。卒業生が組織している神楽研究会との連携なども検討してはどうか。 黒坂小学校との交流は双方が大変に満足している。本校吹奏楽部の根雨小金管バンドの合同練習も始まるが、さらに地域の学校間で交流の輪を広げていただきたい。 チェロ教室、中学校吹奏楽指導、農業指導など、教員による地域貢献に感謝している。	地域との交流は本校が重点的に取り組んでいる事業の一つである。今後はさらに小学生との交流を拡充するとともに、中学生にアピールする方策を検討していきたい。	
(2) 説明・公表について HP は頻繁に更新されている。進学実績などをもっと目立つように載せてはどうか。 「日野高校があって良かった」という思いが地域の方々のあいだに高まるよう、本校教育の PR に努力していただきたい。	HP のデザインについてさらに改善の必要があると感じた。学校のアピールについては、より効果的な方策を今後も模索していきたい。	
2. 学校運営への提言 生徒が実社会に出て通用するためには、総合学科のキャリア教育、人間教育が大変有意義であると感じている。日野高校が今後も総合学科の強みを活かし、自信をもって教育活動を推進されるよう希望する。	今後も総合学科の特性を活かしながらキャリア教育を推進していきたい。また、本校をアピールする方策についても研究をすすめていきたい。	